

ムギ類赤かび病情報第1号（コムギ、六条大麦）

令和6年4月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

防除適期（開花始期～開花期）を逃さないように防除しましょう！

1 近年のムギ類赤かび病の発生状況

- ・前年（令和5年）5月下旬の巡回調査では、赤かび病の発生穂率が過去10年で2番目に高く、前々年（令和4年）5月下旬の巡回調査では、発生穂率が過去10年で最も高い状況でした。
- ・近年、ムギ類赤かび病の発生量が高まっており、一次伝染源となる越冬した病原菌の量も多くなっていると推測されます。

2 防除対策

- ・名古屋地方气象台3月28日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高い見込み、降水量は平年並か多い見込みです。このため、本病に感染しやすい開花期（※）に降雨が続く可能性があり、特に注意が必要です。
- ・ムギ類赤かび病の感染予防のための防除適期は、開花を始めた時期から開花期までの間です。また、その後に降雨や曇天が続くなど多発しやすい条件となる可能性がありますので、1回目（開花期）の防除から7～10日後に2回目の防除が実施できるよう備えてください。
- ・今年に入り気温の変動が大きく、作物の生育がばらついている可能性があります。また、気温の上昇により、今後の生育が早まることが考えられます。ほ場ごとの生育状況に特に注意し、防除適期を逃さないように防除を実施しましょう。

※開花期

1穂につき数花開花をしているものが、全穂数の40～50%に達した日

3 かび毒について

- ・本病原菌は、感染したムギの品質低下や減収の原因になるだけでなく、デオキシニバレノール（DON）やニバレノール（NIV）等のかび毒を発生させることがあります。このため、麦類の生産段階（栽培、乾燥調製、貯蔵）において、赤かび病防除、赤かび病被害粒の選別等により、かび毒汚染の防止、低減を図ることが重要です。詳しくは、農林水産省が公開している「麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール汚染の予防及び低減のための指針（令和5年3月14日公表）（アドレス：https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/mugi_kabi_sisinn.html）」を参考としてください。